

総論

満点	75点	目標得点	58点	試験時間	120分	偏差値	70
大問数	5	小問数	39				
【解答形式】		選択式	38/39問	記述式	0/39問	論述式	1/39問
【問題難易度】		C	3/39問	B	11/39問	A	25/39問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：長文読解3題、会話問題1題、英語による要約1題という形式は4年連続で変化なし。形式は同大学文化構想学部と同一。
- 2：「学問の役割」「記憶の形成」「アメリカ先住民の文化保護」など、長文素材の内容は多岐に渡る。かなり抽象的で難しい文章中には含まれる。長文マラソンなどを通じ、様々なトピックの長文問題に慣れておく必要がある。
- 3：本学部に特徴的な問題がVの要約問題である(200語程度の英文を30語程度の英文で要約)。今年度の問題は要約のやり方が特に難しい。この問題に関しては、過去問を使った演習が特に求められる(詳しくは後述)。

こんな力が求められる！

内容的にもレベルの高い英文を大量に制限時間内に読むことが求められる。とにかく「大量の英文をスピーディに、正確に」読むことが必要である。「時間内に読み終わる」という意識を強くもつこと。対策としては、前期はセンター試験レベルの易しい英文（OS生諸君は授業中のPractical Exercise含む）、後期は長文マラソンや過去問を教材とするのが良い。前期のうちは易しくても構わないので（難しい素材はお茶ゼミの授業で扱うのだから）自分で300～1000語程度の英文を毎日1題は読むということを習慣づけていこう。また、語彙力に関しては、「基本単語が完璧になっている状態」（＝『でか単』PART2までの単語なら、考え込むまでもなく意味が出てくる）を夏休み前までに作っておくこと。また、多義語に関しては辞書をひいて「コア・イメージ」をつかむという作業をやっておく（詳しくは【I】の大問別分析で）。

いわゆる文法問題は出題されないが、だからといって文法をおろそかにすることはできない。本学部、そして同大学文化構想学部においては、「会話問題の形で文法力/構造分析力が問われている」ということをお忘れずに（詳しくは大問別分析で）。対策としては、いわゆる普通の4択の文法問題に加え、センター試験型の並べ替え問題、MARCHレベルの英作文問題などが構造分析力の養成にあたっては良いだろう。この会話問題に関しては、難易度が低いだけに1問でもミスすると命とりになるということを肝に銘じておこう。

Vの英文要約で求められているのは「短文～中文程度の文章を読み、要旨をつかむ能力」である。他に例を見ない出題形式であり、過去問も少ないため対策を立てにくい。が、東大の日本語要約問題（例年、試験の冒頭、大問IのAとして出題される）が良い演習教材になる。東大の場合は、日本語による要約のため、若干出題形式は異なるものの、問題文の量、内容ともに、本学部とかなり近い。後期に入って過去問研究を行う際に補助教材として並行して行うとよいだろう。英作文に関しては後期に入ったあたりで担当の講師と話しあい、添削してもらうスケジュールなどを決めること。

【I】

予想配点	14/75 点	時間配分の目安	15/90 分
出題内容	長文問題 [Word 数] (A)255 words (B)251 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] (A) 学問を学ぶとは (B) 自伝的記憶		
出題形式	空欄補充 (選択)		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1 : A 2 : A 3 : B 4 : B 5 : A 6 : A 7 : A 8 : A 9 : B 10 : B 11 : B 12 : B 13 : A 14 : A (予想配点：各 1 点)		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語, Advanced 英語テキストの長文読解問題。語彙・語法にまつわる問題も多いので 3 年時の夏期講習「英文法完成」、冬期講習「ボキャブラ早慶上智」が良い対策となる。熟語に関しては『完熟』Part0, 1 を夏休みまでに完璧にしておく。		

●本大問の特徴・概要

- ・ 250words程度の英文を二つ読み、文中の空所を補充していく問題。熟語や語法といった、「コロケーション」(語と語の相性)の知識がキーとなって問題を解ける場合も多く、構造をきちんと分析し、空所の前後の「どの語と絡むか」を考えないと、ダミー選択肢にひっかかってかかってしまう。「長文の形で文法・語法を問う」という本学部の姿勢が反映されている大問である。
- ・ 素材文は短いながらも論理的に完結しているので、「対比・対応」をしっかりと捉えること。ここに関してはまずは語彙力の強化が不可欠である(詳しくは後述)。『でか単』PART2 レベルの単語が完璧な状態を夏休み前までに作っておくこと。

●注目すべき小問

5. 「学問の意味を理解するには『テクニックやスキル』のみではだめで『自分の学問の伝統』を理解することが必要だ」という対比を読み取ることがまず必須。空所の前後を追ってゆこう。「インシュタインを我々が褒めたたえるのは『スキル』ゆえにではなく『vision』ゆえである」→「もし彼が異論を唱えた(=challenge)学問の伝統を理解していなかったら(5)は得られえなかった(=obtained)だろう」。対応関係に注意すれば空所に入るのは「vision」=「latter」(後者)が入る。formerとlatterとの対応はセンター試験などでも頻出だが、センター試験よりもなぜ難しく感じられるかということ、まずは語彙レベルの高さである。センター試験は解けるが、本学部は解けないという諸君は、まずは語彙力の強化が必要だ。
9. 「自分のことに関する記憶は、3歳から4歳くらいで(9)される」。多義語revealの知識が決め手となる。reveal=「re(後ろに)+veal(ベール=覆い)」=「覆いを取り外す」。この原義を知っていれば、be revealed「覆いを取り外される」=「出現する」とわかる。かなり高いレベルでの語彙力が問われているが、「ある語の意味が芯からつかめているか」ということが問われているのだ。多義語を覚えるときはこの「コア・イメージ」を大事にしたい。お茶ゼミでは冬期講習の「ボキャブラ」講座で徹底的に演習するが、「コア・イメージ」に関しては辞書が役に立つ。多義語を覚える際には辞書をひいてみること。
10. 「5歳くらいになると(10)の話ができるようになる」。後ろのplot(話の筋)に着目すれば、coherent(首尾一貫した)が答えとなる。これも対応関係に着目すれば簡単。難しく感じられたとすれば、それは語彙力が原因である。

【Ⅱ】

予想配点	25/75 点	時間配分の目安	30/90 分(A. 5 分 B. 8 分 C. 17 分)
出題内容	長文問題 [Word 数] (A)163 words (B)280 words (C)503 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] (A) アメリカの田舎町に対するイメージ (B) 西洋の民主主義 (C) ネイティブアメリカンの文化保護		
出題形式	内容説明		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 15 : A 16 : A 17 : B 18 : C 19 : B 20 : A 21 : A 22 : A 23 : A 24 : C (予想配点：15～19 各 2 点、20～24 各 3 点)		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語, Advanced 英語テキストの長文読解問題、O S 早慶英語の Practical Exercise、長文マラソン		

●本大問の特徴・概要

- ・英文の問いに正しく答えている選択肢を選ぶ問題。(B)の民主主義に関する長文に関しては、「民主主義とは何か」という基本的なイメージが頭の中にできていないと読解は不可能。このような知識を培うには「長文マラソン」をはじめとした大量の読解を行うことが必要である。
- ・基本的に語彙は平易だが、incest (近親相姦), daunting (非常に困難な), eligible (資格のある) など、ハイレベルな語がところどころ出てくる。単語集を使った学習は当然のこととして、普段の長文学習の際、「知らなかった単語・熟語はカードにまとめる」作業を行うこと。長文素材が単語を覚える最良の教材である。早慶受験者たるもの「一度でも教材に出てきた表現はすべて覚える」という姿勢をもちたい。
- ・語彙に関しては、さらに、institution (制度), reason (理性), という「意外な意味」「多義語の知識」が必要不可欠。「多義語は必ず意味を全て覚える」という姿勢で単語集を使うこと。

●注目すべき小問

(B)

民主主義とは、ごく大雑把に言って、「みんなで物事を決定していくしくみ」のことだ。ぼんやりとでもいいから、こういったイメージがないと、第 1 段落の「common(みんなの)経験が唯一絶対的な結論へ導いてくれるという信念」「問題は議論によって解決できる」という点に関しては general (みんな) が合意できている」ということが実感できにくいだろう。頭の良さも問われる問題である。

18. 難問。まず common good 「公益、公共の利益」という単語を知っておくこと。第 2 段落を追っていく。

- ・「公益を擁護する人」—「公益を擁護しない人 (=自分、もしくは特定の団体の利益を擁護する)」の線引きは難しい(筆者注：例えば、普段は公益を擁護する人でも、ダム建設のために自分の住む町がなくなる場合、公益を擁護しない立場になることもあるわけだ)。
- ・however (しかしながら) その 2 つの立場(「公益擁護」=民主主義的←「公益非擁護」=非民主主義的)はかなり明確に定義できる。
- ・何が good かを皆が共有している社会(公益擁護=民主主義的)に、true community が存在する。
- ・この大きな方針に揺れがある社会では争いが起こる。

問われているのはこの true community についてであるが、要するに「公益」という概念が根付いている民主主義的な社会のことだとわかる。答えは(c)「社会的問題について、基本的に同じ考えをもっている」が入る。(b)と相当迷うが、本文中の common good の good とは「利益」であり、「善悪」の「善」ではない。(b)では good (善) ←→evil(悪)の対比となり、×。ただし、ここで(b)を選んで間違った人はある程度仕方ない、「見込みのある間違い方」といえる。

【Ⅲ】

予想配点	21/75 点	時間配分の目安	25/90 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 652 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] 図書館資料の盗難		
出題形式	文補充		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 25：A 26：A 27：B 28：A 29：A 30：A 31：A (予想配点：各3点)		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語, Advanced 英語テキスト (Advanced 英語で 2 回行うセンター試験対策回は特に重要)、O S 早慶英語の Practical Exercise、長文マラソン		

●本大問の特徴・概要

- ・問題文中にある空所に適切な英文を当てはめる問題。7つの空所に対し8個の選択肢、というのがミソ。センター試験の文補充問題と似たつくりで、解法も同じなので、苦手な人はセンター試験の文補充問題演習がまず第一の対策となる。
- ・正答に至るポイントは2つ。①指示語(they, it など)の対応に注意 ②つなぎ言葉(however など)に注意。
- ・今年度は文章が完全に理解できていなくとも、空所の前後と同じような単語がある選択肢を選べば正解できるというパターンが多かった。論理力を試す問題としては、あまりに設問の作りが単純すぎて逆に戸惑った人もいるかもしれない。
- ・設問自体は簡単だが、この系統の問題は1問ミスすると、ドミノ倒し式に間違ってしまうというところがこわい。慎重に選択肢を選び、ここに関しては全問正解を目指さないと合格はおぼつかない。

●注目すべき小問

- (25) 本文第1文 a library worker、第2文 she、空所にあてはまる(c)の the librarian という指示語の対応、また(c)の checked と、その後ろの文の then used the Internet to discover に気をつける。then が「つなぎ言葉」の役割を果たしているということも解答のヒントとなる。
- (28) 空所の全文の study を(h)が such study という形で受けている。これも such という指示語がヒントとなる。

【IV】

予想配点 7/75 点	時間配分の目安 5/90 分
出題内容 長文問題 [Word 数] 209 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2] [長文テーマ] 新人研修についての職場での会話	
出題形式 空欄補充 (選択)	
小問別難易度 ※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 32 : A 33 : A 34 : B 35 : A 36 : A 37 : A 38 : B (予想配点 : 各 1 点)	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ○ S 英語, Advanced 英語テキスト	

●本大問の特徴・概要

- ・ 会話問題。毎年、難易度は低いので、この問題に関しては絶対に 1 問も落とせない。
- ・ ただし、フィーリングのみで答えを出してしまう（「なんとなく、意味的にこの選択肢じゃん」と、間違える問題が必ず 1, 2 問含まれるので要注意。「構造的にこの空所に入りうるのは、この選択肢だ」ということが判断できる構造分析力がここでは問われている。いわゆる文法問題がない本学部ではあるが、このような形で文法力、構造分析力が問われているのである。

●注目すべき小問

- (33) 「大変だ、疲れる」という意味をもつ選択肢を入れたい。答えは (f)。be [feel] worn out 「疲れきる」は覚えておきたい。「頭痛を感じる」と思って (a) にしないこと。feel を使って SVC を作る（「S=C な感じがする」）ときは C には名詞は来ることはできない。
- (34) 空所の後ろに my work という「名詞」が残っているのに注意。この名詞を生かすには、どの選択肢がふさわしいか考える。「前置詞+名詞」の構造を作ることのできる (c) catch up on が正解となる。この設問は非常に簡単だが、本学部の会話問題では、このような「名詞」の役割に留意しないとミスする問題がよく見受けられるので注意しておくこと。空所の左側だけ見て拙速に (d) copy the files にしないこと。これを選ぶと、copy に対する目的語が 2 つ並ぶ形になってしまう。
- (38) it's a real headache 「これは本当に頭痛のタネだ」。これが答えになることは理解できると思うが、用心深い人は「こういう表現は英語ではアリなのか？」と考えて逆に考え込んでしまったかもしれない。ただ、ここでは他に選べそうな選択肢も見当たらないので、(a) を選ぶしかない。

【V】

予想配点	8/75 点	時間配分の目安	15/90 分
出題内容	長文問題、英作文問題 [Word 数] 192 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] 為政者による言論封殺の難しさ		
出題形式	要約英作		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す C		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	○ S 英語テキストの英作文問題、Advanced 英語テキストの並べ替え問題、スポット授業 English Writing		

●本大問の特徴・概要

- ・本学部の最も特徴的な問題。150～200words程度の英文を読み、その要旨を“in your own words”（自分の言葉で）で、かつワンセンテンスでまとめよ、というもの。30 語程度で書くようにしよう。過去問以外の対策としては、Topics で述べたように、東大の要約問題が良い演習教材となる。
- ・「自分の言葉で」という但し書きがある以上、本文中の単語と本文中の文法構造をそのまま借用した答案は採点対象にはならないと考えておくこと。また、ワンセンテンスという制約上、ワンセンテンス内で節をつなぐことのできる接続詞を用いた文を正しく書ける技術が必須である。
- ・年によって難易度にばらつきがあるが、今年はまとめ方が難しい。受験生にとってはかなり大変な問題だったといえる。満点狙いではなくともよいから、正しく読解した上で、最低限文法的にミスのない英文を書くことを心がけよう。時間配分としては、読解 5 分、英作文 10 分といったところか。

●注目すべき小問

読解に関して：

最終文、be 動詞と共に使われている case に「実情、真実」の意味があることは早慶受験者にとっては常識であろう。内容もそれほど難しいものではなく、読解自体はしやすい設問である。

英作文のまとめ方に関して：

最終文の however で対比されているのは『過去から現在に至るまで為政者はメディア（出版物など）に圧力をかけて批判を封殺しようとした』しかしながら『特に情報伝達の発達した現在になってはこのような努力は無駄』ということである。

まとめ方が難しいのは、次の 2 点に起因する。

- (1) 「為政者が圧力をかけて批判を封殺」というのは、実は本文中では Bishop of London の具体例としてしか現れていない。ただし、要約するのであるから、Bishop of London という名前を具体的に出示したり、この人物の行ったことをそのまま書いたりするわけにはいかない。具体例から「言論封殺」というエッセンスを抽出しなければならないのだ。
- (2) 「特に現在においてはこのような努力は無駄」というのは「昔から無駄だった」という含みがある。この「過去における言論封殺の失敗」が Bishop of London という具体例で示されているのだ。

この 2 つをふまえると「為政者によるメディアへの言論封殺は過去から行われていたが、無駄な試みであり続け、特に情報伝達の発達した現代においてはそうである」という形で書くことができよう。